

7-2 配管工事

R410A用として下表の専用ツールが必要となります。

工具名（R410A用）	
マニホールドバルブ	フレアツール
チャージホース	出し代調整用銅管ゲージ
ガス漏れ検知器	真空ポンプ用アダプター
トルクレンチ	冷媒充てん用電子はかり

内外接続配管長・高低差

お願い

- この機種は内外接続配管長の合計で20m分の冷媒を室外機に封入してありますので20mを越える場合は冷媒の追加チャージが必要です。また左表が冷媒配管○の許容値ですので、この長さを越える工事を行わないでください。追加冷媒量は⑦-3「真空引き・リークテスト」を参照してください。
- 接続時に配管内部に水・バリ・砂が入ると、圧縮機の故障ならびに、性能低下につながります。配管加工時や接続時に水・バリ・砂などが入らないように十分注意するとともに、配管接続後は真空引きを必ず実施してください。

配管加工

- パイプ切断
パイプの長さに余裕（300～500mm）を見て切断してください。

- バリ取り
切粉が配管内に入らないように下向きにして行ってください。

- フレアナット挿入
向きに注意して挿入してください。

- フレア加工
フレアリングツール

パイプ径	A寸法（mm）		
	R410A用 フレアツール	従来（R22用） フレアツール	パイプ7/8 （21.9mm）用
φ6.35mm（1/4"）	リジッド（ワラッチ）式	リジッド（ワラッチ）式	リジッド（ワラッチ）式
φ6.35mm（1/4"）	0～0.5	1.0～1.5	1.5～2.0
φ9.52mm（3/8"）	0～0.5	1.0～1.5	1.5～2.0

●従来のツールを使ってR410A用のフレア加工をする場合は、A寸法をR22用のときより0.5mm大きくすれば規定のフレア寸法に加工できます。出し代調整用の銅管ゲージを使用すれば、A寸法が確保できます。

- パイプ曲げ加工は十分注意して、パイプをつぶしたり折らないようにしてください。

配管の接続

- 室内機の接続

- ①パイプとユニオンのシート面には、冷凍機油◎を塗布してください。ネジ部には冷凍機油を塗布しないでください。過剰な締付トルクによるネジ部破損の原因になります。
- ②接続は中心を合わせ、フレアナットは最初の3～4回転を手で締めます。
- ③室内側ユニオン部の締付けは下表を目安にして必ず2丁スパナで締付けてください。締め過ぎると、フレア部を破壊します。

パイプ径	締付トルク
φ6.35mm（1/4"）	14～18N・m（140～180kgf・cm相当）
φ9.52mm（3/8"）	34～42N・m（340～420kgf・cm相当）

- 室外機の接続

- 室内機と同様にして、室外機の各配管接続口へパイプを接続してください。
- 締付けはトルクレンチまたはスパナを用いて、室内機と同じ締付トルクで行ってください。

警告

据付け作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取付ける。冷媒配管を取付けていない状態で、ストップバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・ケガなどの原因になります。

注意

使用していない配管接続口のフレアナットがしっかりと締まっていることを確認する。フレアナットがしっかりと締まっていないとガス漏れの原因になります。

配管サイズの選定

配管サイズ
室内機に同梱された据付説明書に従ってください。

配管の準備

1. 冷媒配管◎は下記の仕様のものを使用してください。
2. 断熱材は、室内機に添付された据付説明書に従ってください。
3. 冷媒配管◎は露付防止のために2本とも確実に断熱してください。
4. 冷媒配管◎の曲げ半径は100mm以上にしてください。

冷媒配管			
	外 径	肉 厚	材料および規格
液 管	φ6.35mm（1/4"）	0.8mm	リン脱酸銅 C1220T JIS H 3300
ガス管	φ9.52mm（3/8"）	0.8mm	リン脱酸銅 C1220T JIS H 3300

7-3 真空引き・リークテスト

地球環境保護の観点からエアパージは真空ポンプ方式をお願いします。

- ハンドルHiは全閉にしたままで、以下の作業中は操作しません。
- マニホールドバルブ使用方法的詳細はマニホールドバルブの取扱説明書をご覧ください。
- 真空引き作業はA室側、B室側両方行ってください。

配管接続が確実に行われたか確認する。
ストップバルブ（ガス管側、液管側）の弁が全閉になっていることを確認する。
ストップバルブ（ガス管側）のサービスポートへマニホールドバルブのチャージホースの突起側（虫ピンを押す側）を接続し、チャージホースを真空ポンプに接続する。

マニホールドバルブのハンドルLoを全開にし真空ポンプを運転する。
ガス管側のフレアナットを少しゆるめエアが入っていくことを確認し、再度フレアナットを締める。
（エアが入っていない場合はチャージホースがサービスポートへしっかりと接続されているか再確認してください）

真空引きを15分以上行い、連成計が－0.1MPa〔ゲージ〕（－760mmHg）になっていることを確認する。

真空引きが終わったらマニホールドバルブのハンドルLoを全閉にし、真空ポンプ側のチャージホースをゆるめ、エアを吸込ませてから真空ポンプの運転を止める。

3分程度このままの状態にして計が戻らないことを確認し、ストップバルブ（ガス管側、液管側）の弁を反時計方向に当てるまでいっぱいになまし、全開にする。
ストッパーに当たったら、それ以上に力を加えない。

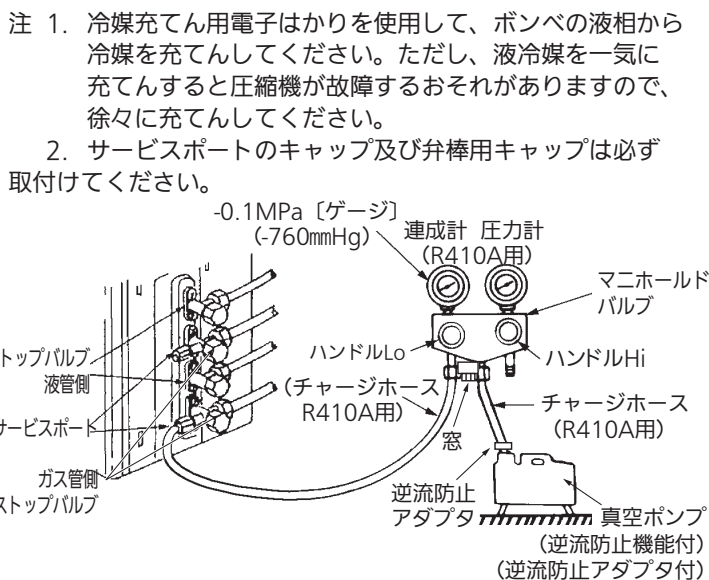
内外接続配管長の合計が20mを超える場合
追加冷媒量は
20×（内外接続配管長の合計－20）g

内外接続配管長の合計が20m以下の場合
追加充てん不要

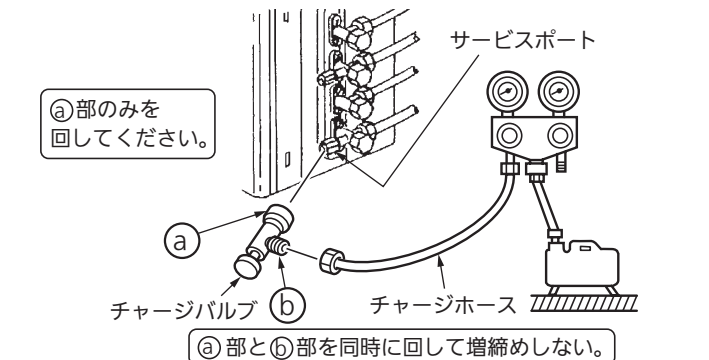
ストップバルブ（ガス管側）のサービスポートよりチャージホースを外す。

サービスポートのキャップとストップバルブ（ガス管側、液管側）のキャップをトルクレンチで締め付ける。
サービスポート…
締付トルク14～18N・m（140～180kgf・cm相当）
ストップバルブ…
締付トルク20～30N・m（200～300kgf・cm相当）

リークテストを行い、ガス漏れがないことを確認してください。



チャージバルブを使用する場合の注意



チャージバルブをサービスポートに取付ける際に締め過ぎるとバルブコア（虫ピン）の変形・緩みによるガス漏れのおそれがあります。

④部のみを回して締め込んでください。
バルブコア（虫ピン）を押込んだ状態（開いた状態）で⑥部を増締めするとバルブコア（虫ピン）が変形するおそれがあります。
③部と⑥部（チャージバルブ本体）を同時に回して増締めしないでください。

- 締付トルクが大きすぎると、フレア部を破損し、ガス漏れの原因になります。
- フレア部が破損すると、増締めしてもガス漏れは止まりません。

- ガス漏れの場合
- フレアナット接続部を増締めしてください。
- 増締めを行っても止まらない場合は、漏れ箇所を修理後、サービスポートより本体ガスをすべて回収し、ガスボンベから規定量を充てんしてください。

7-4 断熱とテーピング

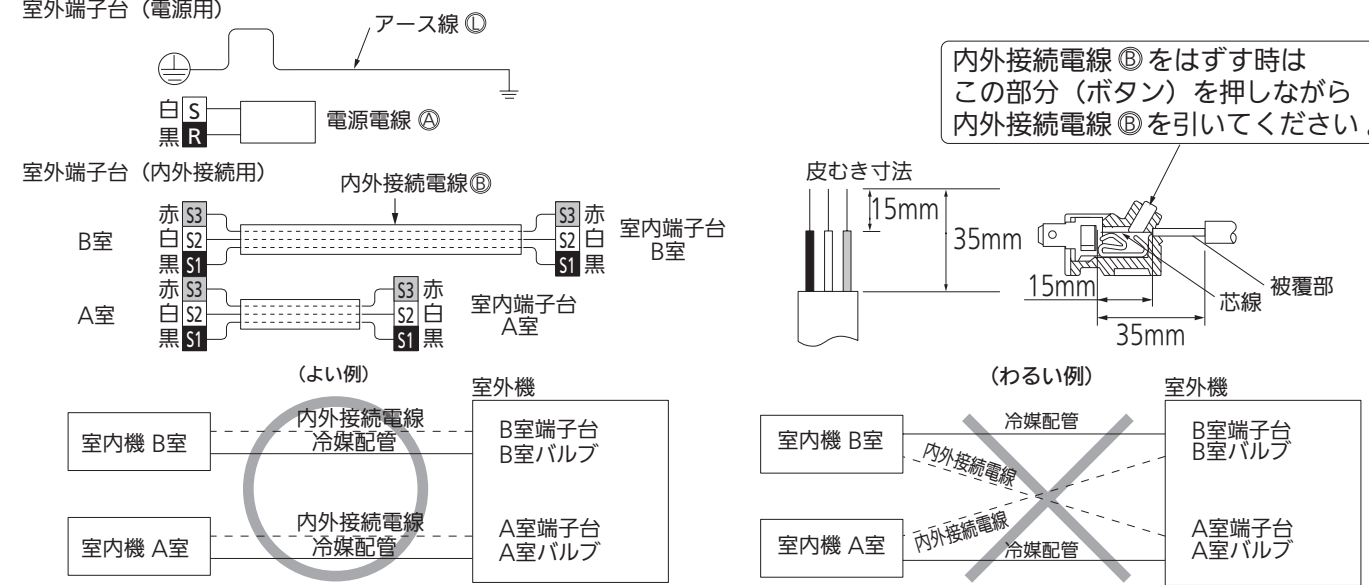
- ①室内側はパイプカバーで接続部の配管をおおいます。
- ②室外側はバルブ部までしっかりと断熱してください。

天井裏や押し入れなどの高温、多湿な場所に配管を通す場合には、露付き防止のため、更に市販の断熱材を巻き加えてください。

7-5内外接続電線と電源電線の接続

内外接続電線と電源電線の接続

- 同一室内機の冷媒配管◎と内外接続電線⑧を室外機接続部の部屋名（例 A室）に合わせて接続してください。



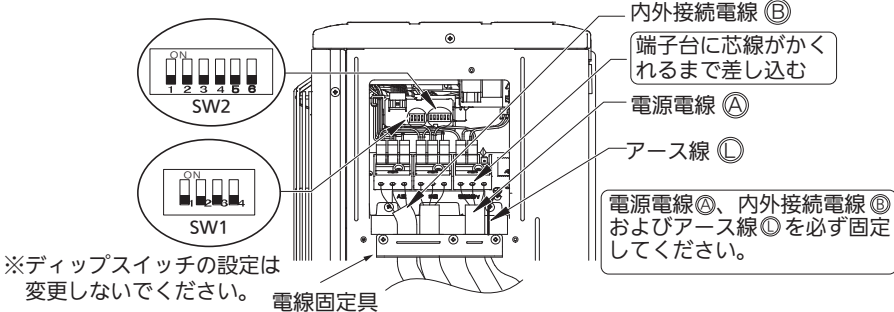
警告

端子台へ電線を接続する際には芯線がかくれるまで確実に押し込み各々の線が引っ張って抜けないことを確認してください。
挿入が不十分ですと端子台が焼損することがあります。

注意

冷媒配管◎と内外接続電線⑧を同一室内機に接続する。
冷媒配管◎と内外接続電線⑧の部屋名を合わせないで運転した場合、室内機からの露垂れや圧縮機故障の原因になります。

- サービス時を考慮し、電源電線④、内外接続電線⑧およびアース線①には余裕をもたせてください。
- 電源電線④、内外接続電線⑧およびアース線①を端子台に接続後、必ず電線固定具で電源電線④、内外接続電線⑧およびアース線①を固定してください。



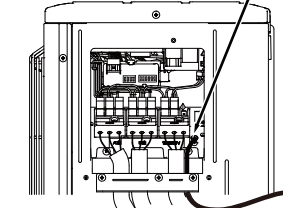
7-6アースの取付け このエアコンは必ず接地工事をしてください。

- 接地工事は、「電気設備に関する技術基準」に従って電気工事士の資格のある方が実施してください。

接地の基準			
電源の条件	据付場所		乾燥した場所
	エアコンの電種	水気のある場所	
交流対地電圧が150V以下の場合	単相100Vの機種 単相200V（単相3線式200V電線）の機種		D種接地工事は法的には除外されていますが安全のため接地工事をしてください。
交流対地電圧が150Vを超える場合	三相200Vの機種	漏電しや断器を取付け、さらにD種接地工事は必要です。	

- D種接地工事について
- 接地工事は電気工事士の資格のある方が実施してください。
- 接地抵抗値は100Ω以下であることを確かめてください。（漏電しや断器を取付けた場合は500Ω以下であることを確かめてください）

アースネジ接地抵抗値（100Ω以下）



アース線（φ1.6mmまたは断面積2mm²以上）アース線は付属されていません。（現地手配）

注意

新築物件やリフォームなどの内装工事、床面のワックス掛け時にはエアコンの運転をさける。
作業終了後にエアコンを運転する場合は十分に換気を行ってください。ワックスなどの揮発成分がエアコン内部に付着し、水漏れや露飛びの原因になることがあります。

8 据付時・据付工事後の確認

確認日 確認者名

□の中にレ印をいれて確認してください。確認後、この据付説明書をお客さまにお渡しください。

据付時 据付後	据付時 据付後
<input type="checkbox"/> □ 専用回路を設けてありますか？	<input type="checkbox"/> □ ストップバルブの弁棒は全開ですか？
<input type="checkbox"/> □ 電源電圧は規定どおりですか？	<input type="checkbox"/> □ ドレンホースの接続は確実ですか？
<input type="checkbox"/> □ フレーカー容量は規定どおりですか？	<input type="checkbox"/> □ 水を流してドレン排水を確認しましたか？
<input type="checkbox"/> □ 内外接続電線⑧ および電源電線④の端子台への挿入は確実ですか？	<input type="checkbox"/> □ 室内機本体裏側配管収納部内の配管はフェルトテープを巻きましたか？
<input type="checkbox"/> □ 内外接続電線⑧ および電源電線④の固定は確実ですか？	<input type="checkbox"/> □ 据付場所の強度はエアコンの重量に十分耐える場所、騒音や振動が増大しないところですか？
<input type="checkbox"/> □ 内外接続電線⑧ および電源電線④の中間接続は行っていませんか？	<input type="checkbox"/> □ 室内機の下に家具、カーテンボックスなどがあり、吹出空気をさえぎっていませんか？
<input type="checkbox"/> □ 冷媒配管◎と内外接続電線⑧との組合せ（A室、B室）は正しいですか？	<input type="checkbox"/> □ 室内機の吸入口に異物がありますか？
<input type="checkbox"/> □ アース線①の接続は確実ですか？	<input type="checkbox"/> □ 試運転は行いましたか？
<input type="checkbox"/> □ 冷媒R410A用配管または、指定肉厚の配管を使用しましたか？	<input type="checkbox"/> □ ドレン工事を適切に行い、異音（ポコポコ）が発生しないことを確認しましたか？
<input type="checkbox"/> □ 配管接続部のリークテストを行いましたか？	<input type="checkbox"/> □ 「安全のために必ずお守りください」の△警告△注意の項目を確認しましたか？
<input type="checkbox"/> □ 真空引きを行いましたか？	<input type="checkbox"/> □ 室内機の据付説明書を確認しましたか？

お客さまへの説明

- 取扱説明書に従って、運転・操作・室内機の清掃方法などを正しく、わかりやすくご説明してください。
- 実際に使用される方が不在の場合は、発注者や管理される方などに説明してください。
- とくに「安全のために必ずお守りください」の項は安全に関する重要な注意事項を記載していますので必ず守るように説明してください。

9 試運転（必ず実施してください）

試運転以外での長時間の運転はおやめください。
建設中の現場などで長時間運転しますとほこりやにおいが付着する場合があります。

運転前に必ず実施してください。

- 電源は定格電圧と合っているか、必ず確認してください。
- 室内機に同梱された据付説明書を必ず確認してください。
- 試運転は必ず1台ずつ実施してください。

試運転は必ず1台ずつ実施し、室内機に同梱された据付説明書により行い、各室内機が正常に機能することを確認してください。

特に冷媒配管◎と内外接続電線⑧の接続違いを検出するためには、試運転を冷房で1台ずつ実施してください。
暖房運転や全室同時運転を実施すると、冷媒配管◎と内外接続電線⑧の接続違いが検出できません。
できるかぎりお客さま立会いで試運転を実施してください。

再起動防止機構について

- いったん、圧縮機が停止しますと、機器の保護のため、3分間再起動防止機構が作動し、3分間は圧縮機が再運転しないようになっています。